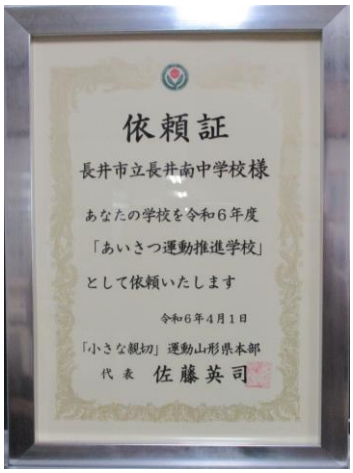
光る知性　豊かな心　強い意志

南 中 生

長井市立長井南中学校
令和　６年　５月２９日
校長　柿　崎　　円

「みそあじうまいよネ！」

あいさつ運動推進学校



南中生の合言葉「みそあじうまいよネ！」。今となってはすっかり定着した合言葉。平成 20 年度、第八代校長　岡田勉先生が「味噌味（身なり、掃除、あいさつ、時間）の効いた学校をつくろう」と生徒に呼びかけてくださったことが始まりです。

平成 20 年度の南中は創立 27 年。新入生 157 名、全校生徒数４６７名でした。どのような世の中だったといえば、新語・流行語大賞に「アラフォー」が選ばれ、年末の世相を表す漢字は「変」（日本の首相が短期間で交代、アメリカの大統領に変革を訴えたオバマ氏が決定、株価暴落に伴う世界経済の大変動などが理由）。今の南中生は誕生していませんが、お家の方は「あぁ、あの頃かぁ」「〇歳頃だ」と懐かしく思われるのではないでしょうか。今年は創立 43 年目。年を重ね「みそあじ」に「うまいよネ！」が加わり、合言葉は進化してきましたが、「みそあじ」は１６年間大事に取り組んできた南中生の誇りとなるものです。

今年度、「小さな親切」運動山形県本部より「あいさつ運動推進学校」として依頼を受けました。毎朝７時５５分から、生徒会企画会・生活委員・応援委員会のメンバーによるあいさつ運動が行われています。メンバーは「名前を呼んであいさつする」「張りのある声であいさつする」など、どのようなあいさつがよいか考えて活動しています。これからどのように南中生のあいさつが変わっていくのか、とても楽しみです。

毎週配付されている翌週の予定表には伊藤教務主任の想いがこめられています。時は流れても「大切にしたい心」や季節、風習、言葉、物事の由来などなど…大変読み応えのあるものです。ここ３週は【あいさつについて考える】シリーズでした。以下、まとめて紹介します。

【5 月 13 日～5 月 19 日の予定　号】

＜あいさつについて考える１　人はなぜあいさつをするのだろう？＞

“あいさつ”は『自分の心をひらく』こと、そして『相手の存在を認める』こと

実は、“あいさつ”には『自分の心をひらく』という大切な意味があります。心をひらくことで、「あなたの敵ではありません」という合図を相手に送っているのではないかと考えられています。“あいさつ”をして気持ちがいいのは、お互いが敵ではないと安心できるからだと思います。

“ あいさつ ” は、人間に野性がまだまだたくさん残っていた頃の、周囲への恐



怖心や警戒心を解きほぐす効果があります。心をひらくことは、コミュニケーションの入り口です。お互いに味方であることを確認して、初めてコミュニケーションが成立します。第一印象で“あいさつ”が大切と言われるのは、互いに味方かどうかの確認作業が必要だからです。反対に、“あいさつ”を相手が返さないと嫌な気分になるのは、相手が自分に対して敵意をもっていると、こちらが受け取るからではないでしょうか。

心をひらく行為である“あいさつ”は、相手の存在を認めていることを、相手に積極的に伝える行為でもあると思います。（次回に続く）

【５月２０日～５月２６日の予定　号】

＜あいさつについて考える２　人はなぜあいさつをするのだろう？＞



˝あいさつ˝をする利点

１　あいさつをした相手との関係が良くなる

右図のように、人には承認欲求（「認められたい」）という欲求があります。これは、睡眠や食欲などと同じような欲求です。あいさつをするということは、その相手を「認める」ということで、「認められている」と感じれば、その人の承認欲求が満たされるので、自分を認めてくれた人に対して好意的に接するようになります。

２　気持ちのいいあいさつは、時に人生を変えることも！

「芸人としての才能がないから辞めさせよう」と、演出家の指摘で、ある青年が浅草東洋劇場から追い出されそうになったコメディアンがいました。しかし、「彼のあいさつは気持ちがいい。辞めさせないで！」と青年をかばう声が上がり、無事彼の首はつながりました。その人は、後のコメディアンのスーパースター、萩本欽一（欽ちゃん）さんです。

気持ちのいいあいさつは、時にその人の人生を変える力を持っています。（次回に続く）

【５月２７日～６月２日の予定　号】

＜あいさつについて考える３　人はなぜあいさつをするのだろう？＞



南中生のあいさつは、いつからよくなったのか？

転機となったのは、平成１５年ごろだったと思います。当時の生活委員会が「あいさつ相撲」という取り組みを行い、校内で男女ともにあいさつの一番いい「人」と「部活動」を投票し、相撲の番付にならって、横綱・大関・関脇・小結・前頭・・・という風にランキングしました。当時は、廊下ですれ違ったら、「お客様、保護者の方はもちろん、先生方とは何回すれ違ってもあいさつを交わしましょう」ということを徹底しました。お客さまからは、「さっきあいさつしたばっかりなのに、今またあいさつさせられた」などと、苦笑いを浮かべながらも嬉しそうに話をしていただいたこともありましたが、「練習なのでどうかご協力をお願いします」と、丁寧にお願いを繰り返しました。部活動ごとのあいさつも盛り上がり、それからどんどん明るいあいさつを交わせるようになり、多少の浮き沈みはあったと思いますが、卒業生の努力や生徒会の取り組みが功を奏して現在に至っています。（ちなみに、2年目からは、女子は番付での呼び方をやめて、「あいさつクイーン」と呼ぶようになりました。）大分省略しましたが、今日はあいさつの歴史を紹介しました。保護者の方で「懐かしい！」と思った方がいらっしゃったのではないでしょうか？裏面に当時の生活委員長（竹田智和さん）の文章を「いずみ」より掲載しましたので、ご覧ください。（裏面へ）　→（今回は略）

次回は、南中のあいさつの特徴を確認したいと思います。

さて、今週配付の週予定には、どのような南中生のあいさつの特徴が書いてあるでしょう？お子様と予想を立てながら、楽しみにしてお待ちください。